

中国は、所得増加による需要の増加を背景に、有機食品の生産量は徐々に増加しました。「2012年世界有機農業年鑑」によると、2010年に中国全土で有機野菜生産企業は1,000社を超えました。そのうち、約70%は北京市、上海市郊外および四川省、湖南省、広東省などの地域に集中しています。

有機食品の消費状況については、中緑華夏有機食品認証センターの調査によると、2009年の有機食品消費金額は106億元、中国食品総消費金額の0.2%を占めます。そのうち、有機野菜の消費金額は、上海市が最も多く、富裕層、海外駐在員などを中心に、年間約6億元以上に達しています。近年、所得増加と食品安全問題に対する関心が高まっている中で、有機野菜の消費量は年間10%以上の速度で増加しているとされています。

急拡大する高付加価値マーケット

上海の富裕層をはじめ、食品への安全性、食品の安全表示への関心度が高まっています。一方、健康志向・美意識の高まりにつれて、野菜を生で食べることへの関心が高まっており、栄養成分を壊さず低カロリーな生野菜サラダが普及し始めています。無公害野菜・緑色野菜・有機野菜の3つを合わせた販売額は3000億元強(約4兆円)に上ります。(2006年統計) 上海の高級百貨店では、半分以上が有機野菜であり、価格が普通の野菜の約3倍にも関わらず購入する消費者は多くなっています。



▲弊社近くの高級スーパーの有機野菜売り場



▲弊社近くの高級スーパーの有機野菜売り場



▲中国有機野菜の認証マーク

こうした有機食品ブームの中、日本の技術などを生かして、有機農園を運営しているビジネスも増えてきています。上海郊外にある二つ有機農園をご紹介します。

陽光田園(上海奉藝果蔬專業合作社)

上海郊外-奉賢区に有り、日本の品種、日本の技術、日本人の管理の元で、日本農産品無農薬有機栽培のモデルを実践する農園です。

農園面積は約100畝(1畝=666.67㎡)で、有機きゅうり、トマト、かぼちゃ、トウモロコシなど様々な種類があり、種はほとんど日本から輸入です。栽培した野菜は安心安全で、市場にあまり出回らないほど非常に人気です。普段は会員制(上海内環状線以内、年間1万元会費)で、毎週旬の野菜を会員の家までお届けしています。現在の会員数は約200名です。土日、祭日、上海市内の裕福層が、車で家族を連れて、無農薬有機栽培の農産品を目指して訪れます。



▲陽光田園の農場

しんせんファーム

「上海点点緑農業科技有限公司」が所有しており、上海浦東空港近くにあります。栽培している有機食品を自社スーパー-「しんせん館」で販売以外に、ビニールハウス内の農地を1区画(約40~45㎡)に分け、半年契約でオーナーを募集します。賃料は半年契約で、1ヶ月500元×6か月分+保証金100元=3100元になります。これには、農具レンタル料、有機肥料代、水道費に加え、平日の水撒き委託料、農業レッスン費まで含まれております。



▲しんせんファームの広告



皆愛企業管理諮詢(上海)有限公司

ADD: 中国上海市長寧区遵義南路88号2305室

TEL: +86-21-61157069

FAX: +86-21-61157389

E-mail: fan@jeckc.cn (ハン)